



卒業・進級おめでとう！

大船渡市で火災が発生し、誰もが大変心を痛めていることではないでしょうか。そのような中ではありますが、本日修了式を迎えることができました。また、明日は、卒業証書授与式を執り行います。保護者の皆様をはじめご来賓の皆様、地域の皆様たくさんの皆様に、子ども達の立派に成長した姿をご覧いただけますこと大変うれしく思います。この日を迎えられたことに感謝の気持ちしかありません。5年生も参列して卒業生への思いを伝えます。

この1年、子ども達はさらに大きく成長しました。では、2つに絞ってお伝えします。

1つ目です。「誰かのために手を使う」ということです。お互いに考えを出し合って学ぶ、困っている友達を手伝う、上級生が下級生のお世話をする、友達が喜んでくれそうなことを考えて実行する、上級生の取組に学び下級生がまねるなど、心温まる場面が日常の至る場面にあります。平舘小の自慢としてさらにパワーアップしました。平舘小の風土として根付いてほしいと思っています。3年生の作文には、「みんなでやさしい言葉をかけて励ますようにした」4年生の作文には、「人のために手を使うことを当たり前のこと」5年生の作文には、「認め合って協力することができた」とあります。お互いの考えを伝え合うことで関係性を深めたのです。人間関係においても、うまくいかないこと、足りないことを自覚し、そこから分かったことがこれからの大きな力になることと思います。どの考えも心を打たれることばかりです。

2つ目です。それは、「間違えること、そして挑戦すること」です。授業では、「どうしたら？」「なぜ？」ということを考え、友達の考えと比べながら考え直すことを、日々繰り返して

1年生の作文より

縄跳びで前まわしとびを30回飛べるようになったことです。…まえはうまく跳べないと自分に怒ってしまうこともありました。がんばったので、諦めないで、やり抜く気持ちが大きくなってきたと思います。2年生では、1年生のお手本になって、1年生で大きくすることができなかった「がまんする気持ち」を大きくしていきたいです。…

2年生の作文より

…神楽を3年生までに絶対に覚えたいという気持ちで練習しました。踊っているときに、間違っているところを探して直したり、みんなと踊っていて違う動きをしたら自分は正しいのか、間違っているのかを判断したりしました。…

3年生の作文より

…よく休み時間に体育館でドッジボールをしました。その時に、オールが自分に強く当たったことがありました。すごく痛くて悲しい気持ちになりましたが、友達が「大丈夫」と声をかけてくれたので、元気になりました。だから、私も同じように友達が悲しい思いをしていたらすぐに、「大丈夫」と声をかけて励ますようにしました。みんなで優しい言葉をかけたので、ドッジボールはとても楽しくできました。…

4年生の作文より

…私は1年間「人のために手を使う」をやったただ手伝うのではなく、手伝いたいという思いがあって初めて「人のために手を使う」なんだと思いました。これを私の「人のために手を使う」にして毎日手伝いたいという思いをもってしたいです。…「できるようになったこと」ではなく、「当たり前のこと」にしていきたいです。…

います。また、新しいことに挑戦することも続けています。児童会活動で、高学年が率先して新しい活動を考え、実行してくれました。「こんな学校にしたい」という願いを実現するために、下級生に後姿を見せてくれました。1年生の作文には「諦めないでやり抜く」中での学びや喜びを書いています。途中でうまくいかずやりたくないこともあったでしょう。しかし、続けてきたからこそその生きた学びがあったことに大きな成長を感じました。2年生の作文には、「絶対に覚えたいという気持ちで何度も練習」したこと、振り返りをしながらやりきろうとする心の成長が書かれています。

この1年の学びと成長を次の学年につなげていけるよう、取組んでまいります。これからも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

おめでとう！

桜の札所絵画コンクール 八幡平市長賞：〇〇さん

県書写書道コンクール

〇毛筆の部

推薦：〇〇さん 特選：〇〇さん、〇〇さん、〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん

〇硬筆の部

推薦：〇さん、〇〇さん、〇〇さん 特選：〇〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん



震災から学ぶ

3.11 追悼集会

東日本大震災から14年が経過した3月11日、5校時に集会と学級での活動を行いました。集会では、今後予想される日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が予想されることに触れながら、次の2点を話しました。大きなテーマは「自分の命は自分で守る」こと。これは、繰り返し避難訓練の際や防災学習の時に伝えてきたことです。今回は、今後起こりうる災害について、知識として学ぶことです。さらに、「準備できること」「自分ののちを守るためにすること」について、釜石の「津波てんでんこ」を例に考えました。さらに、私たちが火山防災やまち歩きで考えていることと結び付けられることはないか課題として投げかけました。各学級では、さらに深めたり、振り返ったりという活動を行いました。今後、災害に立ち向かうべく、準備行動、避難行動や自分たちでできることに結び付けていきたいと考えています。

ある日の出来事から

ある朝のことです。女の子2人が何やらクイズを出しながら歩いてきたようです。自分で考えた答えに導くようにヒントを出し、もう一人が答えるというものでした。とても楽しそうにニコニコしながら会話をしています。答えが出た後には、「その答えならさあ」と言いあいながら歩いています。何気ないこのような対話から、考えが深まったり広がったりするのだと改めて感じました。学習活動の場面に、このような時間をより多く作っていききたいものだと思います。

主体的な活動！



5年生がもち米の収益金を使って、正に「誰かのために手を使う」ということを自分たちで考え、実行しました。

義援金として大船渡市へ 10,235 円

能登半島地震災害へ 10,235 円

学校放送のために 音楽 CD1 枚寄贈

JRC 行動目標「気づき」「考え」「実行する」に通じる活動をしました。